

# 特集「ヒトとモノを中心としたセキュアで信頼できる社会に向けて」の編集にあたって

西垣 正勝<sup>1,a)</sup>

従来、情報セキュリティは、技術的な対応を行うことで安全・安心な環境を利用者に提供できるとの考えから、主に工学的観点から研究が行われてきた。しかし、近年では、被害者の心理学的な弱点を利用するソーシャルエンジニアリングに基づく攻撃が台頭し、インシデントの対応においても、人間の振舞いや意思決定などのヒューマンファクタを考慮すべき状況が発生している。

スマートフォンに依存した生活への傾倒、そして、様々な「モノ」がネットワークにつながる Internet of Things (IoT) の到来によって、今や、日常生活のセキュリティ脅威は格段に増している。技術対策を適用しても、それを利用する人間の脆弱性を無視することはできず、特にプライバシー保護の分野においては、心理学的な側面に配慮する必要性が高まっている。① IoT 環境における認証技術・セキュリティ技術、② プライバシとその保護技術、③ ユーザビリティ・ソーシャルエンジニアリングなどのヒューマンファクタ的観点からのセキュリティ、④ AI・経済学などとセキュリティの協調によって、⑤ ヒトとモノを中心としたセキュアで信頼できる社会を実現することがますます肝要である。

以上の想いから、今回、「ヒトとモノを中心としたセキュアで信頼できる社会に向けて」特集号の企画に至った。本特集号に対して 21 件の論文投稿があり、最終的に 14 件を採録とした。上述のように、本特集号では、① IoT 認証・セキュリティ技術、② プライバシ保護技術、③ ヒューマンファクタセキュリティ、④ AI・経済学セキュリティの協調の 4 つの典型テーマ例を掲げ、⑤ 信頼できる社会の実現に寄与する研究論文の掲載を目的としたが、結果として、① に分類される論文が 3 件、② が 4 件、③ が 4 件、④ が 2 件、⑤ が 1 件採録されており、当初の期待どおりの編集結果が得られたと考えている。本特集号が、社会の安心と安全の推進の一助となれば幸いである。

最後に、限られた時間の中で、多様な論文の査読を行い、予定どおり出版にこぎつけることができたのは、査読者や

編集委員、学会関係者の皆様方の多大なるご尽力の賜物であり、編集長としてこの場を借りて厚く御礼を申し上げたい。特に、廣田啓一幹事（日本電信電話）、金岡晃幹事（東邦大学）には、取りまとめの中心となって微細にわたって運営にご献身いただいた。心からの感謝を送りたい。

「ヒトとモノを中心としたセキュアで信頼できる社会に向けて」特集号編集委員会

- 編集長  
西垣正勝（静岡大学）
- 幹事  
廣田啓一（日本電信電話）、金岡 晃（東邦大学）
- 編集委員  
沖野浩二（富山大学）、稲葉 緑（JR 東日本）、井上大介（情報通信研究機構）、猪俣敦夫（東京電機大学）、上原哲太郎（立命館大学）、遠藤直樹（東芝ソリューション）、大坐島 智（電気通信大学）、小松文子（長崎県立大学）、五味秀仁（ヤフー）、坂本一仁（セコム）、斯波万恵（東芝ソリューション）、島岡政基（セコム）、白石善明（神戸大学）、高田哲司（電気通信大学）、田中健次（電気通信大学）、田中俊昭（KDDI 研究所）、角尾幸保（日本電気）、寺田真敏（日立製作所）、松浦幹太（東京大学）、村山優子（津田塾大学）、毛利公一（立命館大学）、八槇博史（東京電機大学）、山口高康（NTT ドコモ）、吉浦 裕（電気通信大学）

<sup>1</sup> 静岡大学創造科学技術大学院  
Graduate School of Science and Technology, Shizuoka University, Hamamatsu, Shizuoka 432-8011, Japan

a) nisigaki@inf.shizuoka.ac.jp